

「架空議決」は、東京第5検査審査会の  
 強制起訴に追い込んだ東京第5検査審査会の  
 検査審査員は、実際には存在していません。疑惑の小沢  
 起訴議決は、架空議決だった。疑惑の小沢  
 事件の真相を追い続けている志岐武彦氏（東  
 京都在住、72）は、過去2回の本誌連載で、幽  
 霊審査が小沢議員を刑事被告人に仕立てたと  
 する根拠をさまざまな角度からいくつも示して  
 きた。最終回は検査をはじめ、  
 それを所管する最高裁判  
 務総局、さらには会計  
 検査院をも巻き込んで  
 の隠蔽工作を暴くを  
 入れる。

# 強制起訴に追い込んだ

# 審査会と最高裁の

# 闇

## 最終回 最高裁と会計検査院の “架空議決”隠蔽工作を暴く

### 黒く塗り潰された開示書類

小沢一郎議員が民主党幹事  
 長だった2010年10月、東京  
 第5検査審査会は同議員が自  
 身の政治資金管理団体「陸山  
 会」の政治資金取支報告書に  
 虚偽記載をしたとして起訴議  
 決。検査によるこの起訴議決  
 は2回目であり、これにより小  
 沢議員は強制起訴され刑事被  
 告人となった。

しかしその後の刑事裁判に  
 おいて、同議員が一審、二審と  
 もに無罪判決を言い渡された  
 のは周知のとおりだ。

これに関して市民プロガの  
 志岐氏は「起訴議決したとす  
 る東京第5検査審査会の検査  
 審査員はそもそも存在してい  
 なかった。起訴議決は、架空  
 議決にはかならない」と指摘。  
 その根拠について同氏は前  
 号、前々号の連載を通じて以下  
 のような事実を示してみせた。  
 ●検査審査会事務局が発表し

何か特別の事情があったこと  
 で、最高裁が、架空議決、な  
 どというトンデモないことを企  
 むはずがないと反発される方  
 に多く出会ってきました。

そこで私はさらなる真相追  
 求のために検査やそれを所管  
 する最高裁判務総局に対して  
 ささまざまな情報開示請求をし  
 ましたが、開示された書類は  
 重要な箇所がごとごとく黒く  
 塗り潰されており、疑念はさ  
 らに増すばかりでした。

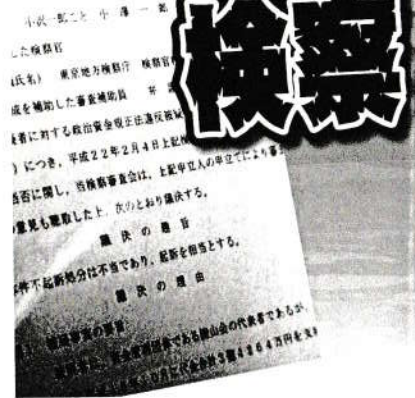
たとえば本来開示してしか  
 るべき審査会議の開催日はも  
 とより、審査会義で使用した  
 会議室名、審査員候補者や議  
 決審査員の生年月に至るまで、  
 何から何まで黒くマスキングさ  
 れているのですから。



断っておきますが、私は審  
 査員候補者や議決審査員の、生  
 年月日、を教えてくださいと言っ  
 ていないのです。個人情報には  
 当たらない範囲の、生年月日、に  
 ついて開示請求したにもかかわらず、  
 最高裁判務総局はそれ

### 【短期集中連載】

# 小沢一郎を 検査



もまかりならんというのです」  
 最高裁判務総局は何度も情  
 報開示請求を繰り返す志岐氏  
 をまるで小馬鹿にするかのよ  
 うにその態度、ほぼ黒塗りの  
 書類を交付してお茶を濁し続  
 けた。

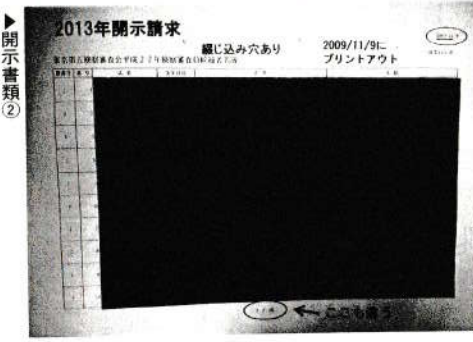
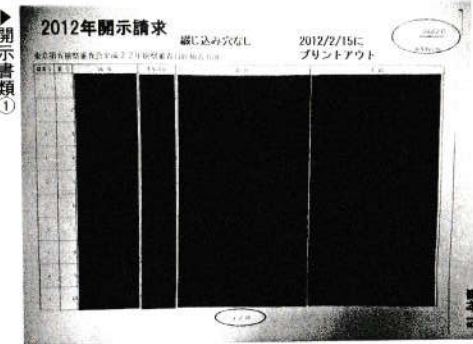
## 2種類の審査員候補者名簿

志岐氏が一枚の開示書類を  
 示して説明する。  
 「これは私が11年11月に東京第  
 5検査審査会に情報公開請求  
 し、12年2月に開示された2  
 010年分の（東京第5検査  
 審査会の審査員候補者名簿）  
 後になって改めてチェックする

と奇妙な点に気付いたのです」  
 そう言って志岐氏は名簿 ※  
 開示書類①を参照）の右上を  
 指差して、こう続ける。  
 「見てください、09年11月に作  
 成されたはずの名簿であるに  
 もかわらず、（2012/2  
 /15）という日付が印字され  
 ているのです」

これら2つの異なる名簿の  
 存在が明らかになったことによ  
 り、同氏は東京第5検査審査  
 会において検査審査員不在の  
 「架空議決」が行われたことを  
 確信したという。  
 同氏が続ける。  
 「ちなみに小沢事件の捜査が始  
 まる以前の08年11月に作成さ  
 れた（09年の第4群の名簿）に  
 は、12年開示分と13年開示分  
 のいずれも同じ日付（2008  
 /11/11）が印字され、同じ

位置に縦じ穴があります。つ  
 まり同一の名簿をファイルから  
 外して複写したものと考えら  
 れます。  
 では、その後の（10年の第1  
 /3群の名簿）の日付が開示  
 時期によって異なるのはなぜな  
 のでしょうか？」  
 この点を同氏が検査事務局  
 に尋ねると、以下のような耳  
 を疑うような答えが返ってき  
 たという。  
 「12年に開示した（10年第1）



3群の名簿)はパソコンから出力したので、出力日(の2月15日)が印字された」

しかし先にも記したとおり、13年に開示された名簿には作成時期に合致する(2009/11/9)の印字と綴じ穴が写っている。

このことは審査員候補者名簿がファイルに綴じられて保管されていることを示している。それを踏まえて志岐氏が見解を示す。

志岐氏を名譽棄損で提訴し目下係争中の森裕子・前参院議員も当時、検査審査会に対して疑惑の目を向けていた二人だった。

もう、うそではないかという国民から大きな疑問が寄せられているわけ(ご)います」

### 核心を外した会計検査院

えるのは、同じ審査員候補者名簿であるにもかかわらず、現実には2種類存在していた事実です。有り体に言えば、片方が本物であれば、片方は偽物だということ。無論、たとえ

両方とも偽物だという疑いもあります。この事実によって、私が指摘し続けている検査の「架空議決」疑惑はさらに色濃くなっ

「会計検査院の検査はまさしく恣意的なものでした。私たちが知りたい核心部分に意図的にメスを入れなかったのですから」

志岐氏がいう。「小沢事件を担当した東京第5検査審査会の審査期間は平成22年2月から10月でした。会計検査院は肝心のこの期間を検査対象とせず、審査員の実在確認をしなければならず、

「すなわち、会計検査院は、当事者である検査審査会及び裁判所を介在させずに調査するため、11検査審査会の会議に(平成)23年5月から7月までに出頭したとして旅費等が支払われている189人に調査票を直接郵送した。この結果、146人から回答があり、この146人全員から、検査審査会に出頭した実績があり、旅費等の振り込みを受けている旨の回答がなされた。また、

「11検査審査会全てについて、所属した検査審査会に出頭した実績がある旨の回答がなされている。」

「小沢事件を担当した東京第5検査審査会に審査員が実在しないにもかかわらず、開いたこととして後付けで請求書作りを

「一方、志岐氏は情報開示請求により独自に審査員日常旅費の支払い状況を調査。そこでも不可解な事実がいくつも浮かび上がったという。」



「本当に審査会議が開かれていたなら、3月19日に15人全員分の発議をするはず。そのほうが事務的に余計な手間がかかりません。翻って審査員が実在していたならば、このような支払い方は不公平とそしりを免れません」

「小沢事件を担当した東京第5検査審査会に審査員が実在しないにもかかわらず、開いたこととして後付けで請求書作りを

### 旅費日当支払いの不可解

審査員に対する日当旅費の支払い手続きの流れは以下のとおりだ。

① 検査審査会事務局が請求書を作成する

② 審査会議終了時に審査員から請求書に認印をもらう

③ 事務局は捺印済みの請求書を当日、あるいは翌日に所轄の地裁に届ける

④ 地裁が請求書に基づき歳出支出証拠書類(債主内訳書・支出負担行為即支出決定決議)を作成する

⑤ 歳出支出証拠書類は正副2通作成される(※(副)はコピー)

⑥ 歳出支出証拠書類(正)が地裁管理者に回り決議書に承認印が押される

⑦ 歳出支出証拠書類(正)に基づき地裁にて振り込み手続きがなされた後(正)が会計検査院に送られる

⑧ (副)が地裁に保管される

志岐氏が見解を示す。

これらの流れを踏まえて志岐氏が審査会議日(地裁発議日(支払いを確定した日))と支払い予定日の関係を検証したところ、小沢事件を担当した東京第5検査審査会の審査員日当旅費支払いには、以下のような不可解な点が浮かび上がってきたという。

● 2月23日の審査日分を25日、3月9日の審査日分を29日、3月19日の審査日分を21日、3月9日の審査日分の残り14人と、3月16日、23日、30日の審査日分を一括して4月1日に発議している

● 8月10日、24日、31日の審査日分を一括して9月6日に発議している

● 3月9日の審査日分の残り14人と、3月16日、23日、30日の審査日分を一括して4月1日に発議している

● 8月10日、24日、31日の審査日分を一括して9月6日に発議している

志岐氏が見解を示す。

「小沢事件を担当した東京第5検査審査会に審査員が実在しないにもかかわらず、開いたこととして後付けで請求書作りを

「小沢事件を担当した東京第5検査審査会に審査員が実在しないにもかかわらず、開いたこととして後付けで請求書作りを

「小沢事件を担当した東京第5検査審査会に審査員が実在しないにもかかわらず、開いたこととして後付けで請求書作りを

Advertisement for various services including cleaning, laundry, and home care, with contact information for 株式会社 藤佐商会グループ.